



自治体連携を踏まえた居場所事業調査をとりまとめました

2023年に生活クラブのシンクタンクである(一社)市民セクター政策機構から、市民事業と自治体行政の連携の中で、ワーカーズ・コレクティブが現在、どの程度、自治体と連携しているのかその広がりについて実態調査依頼がありました。この結果を踏まえ、2024年～2025年は事業対象を居場所にしぼり再調査を実施し報告書をまとめました。



ほーぶカフェ 大阪府堺市(N)福祉ワーカーズほーぶ

市民事業と自治体行政との連携を拓げるために

現在の社会状況が、もはや行政に頼っているだけでは課題の解決につながらないことから、柔軟で機動力のある市民事業が全国各地で展開されています。私たちワーカーズ・コレクティブもまた、地域の課題を解決しようとして日々奮闘しています。しかし、それぞれが別々に動いている限りがあるので、市民事業と自治体行政の連携は複雑な課題を解決するための鍵となります。

2023年に行った調査結果は、予想以上に多くのワーカーズ・コレクティブが自治体と何らかの関係を持ち、地域で事業活動を展開しているというものでした。この結果を踏まえ、2024年度は事業対象を居場所にしぼり、(一社)市民セクター政策機構と共により正確な実態把握からの可視化を通して事業継続へのヒントを見出し、自治体との連携を拓げるための政策提案を検討することを目的に再調査を行うこととしました。

連携が欠かせない居場所事業

今回、対象業種を居場所としたのは、先の調査活動の結果、主な連携業種はケア事業(高齢者・障がい者・子育て支援)だったこと、また昨今、地域で居場所事業を始めたいという声が多く聞かれるという理由がありました。しかし居場

所事業で採算に乗せることはなかなか難しく、多くはボランティアな活動に支えられています。だからこそ自治体等との連携が必要な分野であると考えました。

アンケート調査に対しては、居場所事業を行うワーカーズ・コレクティブ71団体から回答を得ることができました。2025年度は調査結果からさらに項目を絞り込み9団体へのヒアリング調査を実施しました。

報告書を活用し居場所事業の発展を

調査から、少子超高齢社会の抱える課題解決には欠かせない人や地域とのつながりという点では、ワーカーズ・コレクティブ運動と関わりの深い生活クラブ運動グループとの連帯・連携は地域でかなり根付いているという特徴がみられました。

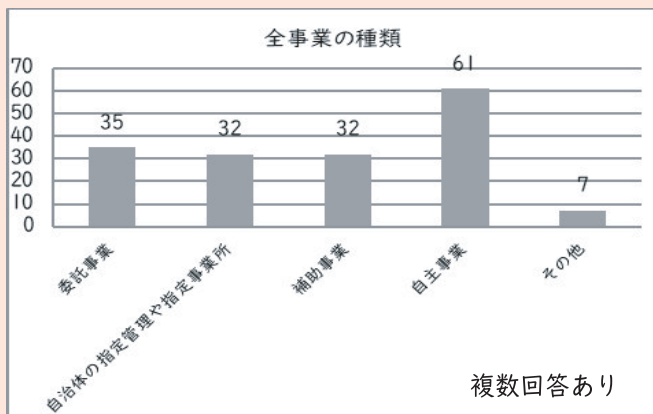
自助・公助だけでは解決できない点をカバーし豊かな地域社会をつくるためにも、ワーカーズ・コレクティブの自主的な事業は地域で欠かせない存在であることが明らかです。

今後この報告書をきっかけに情報交換を行ったり、課題に向け知恵を出し合い連帯して解決策を検討するなど、事業継続と新たな居場所づくりに活用し、事業を支える支援の必要性を行政に訴えるなど、事業の発展にもつなげていきたいと思っています。

9月に市民セクター政策機構と共に調査報告会を予定しています。WNJホームページでご案内します。ぜひご参加ください。

調査のまとめから抜粋

事業内容は、「自主事業」が最も多く、次いで「委託事業」「自治体の指定管理や指定事業所」「補助事業」が並びました。居場所の自主事業だけでは、経費や人件費に見合う収入を得るのが難しく、いずれの団体も他の収益事業を併せ、工夫をこらし地域のニーズに応えようと特色のある事業を展開していることが分かりました。



生きがいつくり推進事業

長野県辰野町
(N)辰野自立生活支援の会あかり

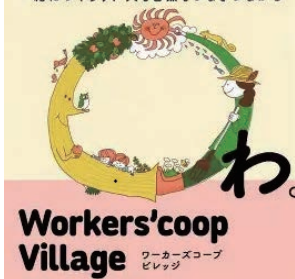


ばあばの家あさだ

神奈川県横浜市
(N)ワーカーズコレクティブ
たすけあいぐっぴい

食事業と福祉事業をつなげる官民学連携のモデル事業を提案し、休眠預金を活用した例や、障害福祉サービス、福祉有償運送、生活サポート、移動支援、暮らし支え合い、空き家の見守りなど福祉的なサービス事業を併用しておこない、社協・自治体とも連携している事例もありました。

資金については「行政からの補助金・助成金」を受けている団体が約6割で次いで「会費」というのが結果でした。一方、課題として行政の補助金や助成金が獲得できない(探せない・申請が困難)という回答も多くありました。



2026年4月18日・19日

環境フェスティバル「アースデー東京 2026」

アースデーは、1970年アメリカのG・ネルソン上院議員が、環境のかかえる問題に対して関心をもってもらうと、4月22日を”地球の日”であると宣言。民族・国籍・信条・政党・宗派をこえて、自由にその人の方法で、地球環境を守る意思表示をする国際連帯行動の日です。

今年、代々木公園で開催された「アースデー東京25周年」には述べ10万人が来場。WNJは会場内の「ワーカーズコープビレッジ」に出店、参加し、東京・埼玉・神奈川のワーカーズ自慢の品の販売と、協同労働をアピールしました。



今年は、新たに学生団体エリアが立ち上がり、大学生や高校生の約50団体が参加。

大勢の学生さんがWNJの展示ブースに足を止め、ハニーBeeの貴重な「にほんみつ峰」の巣箱をみたり、養蜂の説明を熱心に聞く姿がありました。



協同労働をテーマにしたトークセッションでは、神奈川のワーカーズ・コレクティブあんずが「本来人間にそなわっている自然治癒力を大切にしようとの考えのもと、あんず薬局はお客さまの心と体に寄り添って事業をしています」と話しました。



(労)ワーカーズ・コレクティブハニーbee (三芳町) 埼玉県入間郡三芳町で養蜂をし、特定の花を蜜源にせず、周辺の草花から集めた「百花蜜」・「百花密せっけん」「蜜ろう」を販売。



約300もの多様な出店ブースやコンサートなど、次の世代が主体となって発信するエネルギーが会場全体に広がっていました。



人と人、人と自然、仕事と地域をつなぎ直し、誰も取り残さない社会を実現する・・・そんな挑戦を体験し、学べる場ワーカーズコープビレッジを構成した皆さん。



(N) カフェこすもす (八王子市) ハンディキャップのある人など、世代や立場を超えて共に働いているワーカーズのアピールと、天然酵母・国産小麦を中心に使用した焼きたてパンや菓子の販売。

ワーカーズ・コレクティブ 労働者協同組合連合会を設立します

2026年5月1日現在、労働者協同組合法人は全国で186団体が設立されています。その中でワーカーズ・コレクティブの労働者協同組合法人は51団体となりました。

6月23日、準備会・発起人会を経てWNJと共にワーカーズ・コレクティブ運動を推進する両輪となる労働者協同組合連合会の創立総会を迎えることとなりました。労働者協同組合に特化した連合組織を作ることによって、社会的な影響力へのスケールメリットを生かしワーカーズ・コレクティブを社会化し、広げていく大きな力としていきます。

対外的な窓口や労働者協同組合の周知広報、法人支援等に取り組むと共に、法施行から5年後の法改正の検討に参画し、より多くのワーカーズ・コレクティブや市民が使いやすい法律になるよう意見を届けていきます。

ワーカーズ・コレクティブ 労働者協同組合連合会(仮称) 創立総会開催

日時：2026年6月23日(火) 14:00～15:30
場所：生活クラブ神奈川 オルタナティブ館 スペース・オルタ



ワーカーズ・コレクティブあんず(横浜市) ブースにはハーブ、健康補助食品、薬膳材料など、自然治癒力を高め、健康を守る品々が並び、多くの質問にも応え大好評。

「Information」

第30回 WNJ 定期総会

日時 2026年6月23日(火) 10:30～12:30
場所 生活クラブ神奈川 オルタナティブ館 地下1階 スペース・オルタ
横浜市港北区新横浜 2-8-4
新横浜(新幹線・JR横浜線) 徒歩7分